

令和8年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ) 結果報告

会期：2026年8月6日(木)～7日(金) 会場：和歌山ビッグホエール

爽秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、本校柔道部が13年ぶりに秋田県予選を突破し、令和8年度全国高校総体柔道競技（以下、「インターハイ」とします。）に出場するにあたり、皆様から絶大なるご支援を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

インターハイ出場が決定してからは、秋田県代表として恥ずかしい試合はできないと考え、秋高らしくしぶとくチームのために他のメンバーに繋ぐ柔道をインターハイの舞台でもやりきろうと、一から鍛え直し全員好調を維持しながら和歌山に行くことができました。

8月6日、男子団体1回戦、福井県代表福井工大福井高校との対戦でした。先鋒須藤が、相手のパワーに押され気味ではありましたが、秋高の3年間で身に付けた体力で対抗し、終盤に攻めを急いだ相手の技を小外刈で切り返し「有効」を取り幸先のよいスタートとなりました。次鋒高橋は60kg級東北三位ではありますが相手は81kg級北信越チャンピオンということで序盤から劣勢。最後は組み止められ大腰で敗れました。中堅戦、66kg級ながら本校主力の杉山です。相手は90kg級のモンゴル人留学生でした。序盤、しっかりと組み止め得意の大内刈で「有効」を奪いました。ここで逃げ切り優勢勝ちを狙う手もありましたが、チームとして、また主力として何が何でも一本勝ちを狙い攻めに出る杉山に対し、体格に勝る相手もなりふり構わず低い体勢からの肩車を出してきました。体で押し込まれた形となり「技あり」の宣告。その後も杉山は主力らしく最後まで一本での逆転を狙い技を出しましたが、攻めがやや単調になったところをモンゴル人選手特有の力づくの返し技を食らう形で「技あり」。

結果合わせ技にて敗退となりましたが、ここまでの3試合を通じて秋高の健闘に会場は盛り上がりを見せました。

しかし、副将一年生66kg級の加賀谷、大将二年生玉井の二人は、体格・体力に勝る重量級選手に奮闘むなしく敗退しました。二人には、この経験を糧にしてこれからの秋高柔道部を支える選手になってもらいたいと考えています。結果1対4での敗退ではありましたが、秋高らしい戦いはできたと思います。今回の経験を、次は全国の舞台での勝利に繋ぐべく頑張ろうと思っています。

翌日行われた個人試合には、66kg級東北チャンピオンの杉山が上位入賞を目標に出場しました。一回戦二回戦ともに一本勝ちで勝ち上がりました。ベスト8を賭けた三回戦にて優勢に試合を進めるも中盤相手奇襲のタックル気味の抱きつきの技を不用意に受けてしまい「技あり」を失ってしまいました。その後逆転を狙い攻めに攻めますが、やはり全国大会です。簡単には仕留めることができずに試合終了。非常に悔しく、残念な敗退となりました。杉山には、この悔しさは大学で必ず晴らすように話しましたし、秋高柔道部としても必ずや晴らさなければと改めて闘志をかき立てられる結果となりました。

今回は団体・個人ともに悔しい結果となりましたが、部員全員ここがスタート地点だと再認識しております。そして新チームでも全国の舞台に立てるよう、勝利できるように精進を重ねていく所存であります。本校柔道部に対しまして、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。簡単ではありますがインターハイの結果報告とご支援に対するお礼といたします。

監督 山田 公一

戦 績

男子団体 1回戦敗退 秋田高（秋田） 1－4 福井工大福井高（福井）

先鋒	須藤 悠希（3年）	○	優勢[有効・谷落]	△	宮川 悠斗
次鋒	高橋 隼馬（2年）	△	釣込腰（2:14）	○	藤本 翔稀
中堅	杉山 勇人（3年）	△	合技[肩車・谷落]（2:48）	○	バトツアガンバトスレン
副将	加賀谷 優希（1年）	△	合技[肩車・横四方固]（1:06）	○	早瀬 澄人
大将	玉井 直（2年）	△	内股（0:40）	○	田中 雄大

男子66kg級 杉山勇人（3年） 3回戦（ベスト16）敗退

【1回戦】	杉山 勇人	○	小内刈（3:43）	△	尾崎 優 （徳島・徳島科学技術高）
【2回戦】	杉山 勇人	○	合技[大内刈・大内刈]（2:33）	△	村上 一颯 （和歌山・初芝橋本高）
【3回戦】	杉山 勇人	△	優勢[技あり・谷落]	○	岡 煌陽 （三重・四日市中央工高）



一つ上の先輩方が引退して新チームになってからは、秋田工業高校、能代高校には連敗を喫していました。4月の横手市での全県選抜大会では3位に入ることもできず、5月の中央支部総体では秋田工業高校に1対3と、全県優勝には、大きな隔たりがありました。そこから約1ヶ月、死に物狂いで練習しました。迎えた県総体、準決勝で秋田工業高校、決勝で能代高校という厳しい当たりでしたが、全員がそれぞれの役割をきっちりと果たして、両校とも破り、13年ぶりに秋田県の頂上に立つことができました。

全県総体から2週間後の東北大会では団体戦で第5位と、小兵軍団ながら健闘しました。約1ヶ月半後の和歌山インターハイに向けて、朝のグラウンドでのラントレ、放課後の柔道とウェイトトレーニング、夏休みの二部練など、厳しい練習を乗り越えてチームの結束力をより強め、非常に良い形でインターハイに臨めました。

インターハイ会場には全国の猛者たちが集まり、自分たちは団体での出場は初めてだったのでとても緊張しました。初戦は福井県代表の福井工大福井高校でした。身体が大きい相手に対し、一人ひとりが全力を出して戦いました。県総体で戦った秋田県他の高校の応援も力にして挑みましたが、結果としては1対4で初戦敗退となりました。しかし、インターハイに出場するまでの過程、秋田県代表として秋田県を背負ってインターハイに出場できたことの誇りは、かけがえのないものです。ここまで来ることができたのは、柔道や生活面も指導して下さった監督やコーチ、様々な面で力を貸していただいた部長、練習で胸を貸していただいた秋大の先輩方、一番近くで支えて下さった保護者、そして応援してくださるOB・OGの方々など、全ての方々の力あってのことです。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

主将 杉 山 勇 人

決算報告

先般の令和8年度全国高等学校総合体育大会に際しまして、皆様方から多大なご厚志と温かいご声援を賜り、心から感謝申し上げます。各方面よりお寄せいただきました寄附金等の収支決算をご報告します。

なお、収支残高に関しましては、秋田高校柔道部強化費として活用させていただきますので、ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

収 支 の 内 容	
収 入	2,209,205 円 (寄附金)
支 出	633,475 円 (選手旅費、用具費、事務費ほか)
収支残高	1,575,730 円 (秋田高校柔道部強化費)

秋田県立秋田高等学校 柔友会会長
副会長

船木 賢咲
倉泉 信夫
加藤 義康
北林 一成

柔道部父兄会長 菊地 功
柔道部顧問 佐藤 睦子
山田 公一